



大地を見る目を磨こう！

～めざせ！筑波山地域ジオパーク～

ジオ通信(第2回)



大地の楽しみながら学べる「ジオパーク」。「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。現在、つくば市は周辺市(石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市)とともに、日本ジオパーク認定を目指しています。 **問** ジオパーク推進室

ジオパークの楽しみ方

ジオパークの楽しみ方は人によってさまざまです。「今まで何気なく見ていた景色が少し違って見える」ことも、その楽しみの一つといえます。

例えば、筑波山は標高900mにも満たない山ですが「日本百名山」に選ばれるほど美しい姿をしています。その姿をよく見ると、山頂は険しい2つの峰を有し、山腹から山麓にかけては、なだらかな「末広がり」の斜面を形成していることが分かります。このような末広がりな山は、富士山に代表される火山のイメージが強いかもしれませんが、筑波山は火山ではありません。筑波山が末広がりな姿をしている理由は、筑波山を構成している岩石の種類に秘密があります。

筑波山に登ると、山頂に向かうにつれてゴツゴツとした大きな岩が多いことに気が付きませんか？ これは「斑れい岩」という筑波山の山頂部を構成している岩石で、雨や風に長年さらされてもポロポロになりにくい性質を持っています。そのため、筑波山の山頂部はゴツゴツとした岩肌となり、険しい峰となっています。一方、山腹から山麓にかけては、「花崗岩」という岩でできています。この岩は、長年雨風にさらされると砂状に崩れ、なだらかな斜面を作ります。つまり、この2種類の岩石の性質の違いが、筑波山の美しい姿を形づくっているのです。

このような話を聞くと、今まで何気なく見ていた筑波山の姿や登山道の景色が、いつもとは少し違って見える気がしませんか？ 同じように、普段何気なく住んでいる場所にも、大地の成り立ちや特有の生態系、



2つの峰と末広がりな斜面を持つ筑波山



斑れい岩の巨石でできた
弁慶七戻り



ゴツゴツとした岩肌の
女体山山頂



崩れかけた花崗岩
を見ている様子



新鮮な花崗岩(左)と砂状に崩れた花崗岩(右)



ガイド付きジオツアーの様子

人々の営みなどをつなぐ「ジオストーリー」があるはずですが、ツアーなどでこれらのストーリーをガイドさんから学び、実際に見て、楽しみ、地域内外の人に筑波山地域の魅力を再発見してもらおうという取り組みが「ジオパーク活動」なのです。

また、このように大地を学ぶことは、例えば防災面などでも意義があります。地震や洪水、土砂災害など、日本は自然災害と隣り合わせの国です。「自分の住む場所の大地の特徴」や「過去に起きた自然災害」など、子どものころから「ジオ」の知識を蓄えておけば、いざという時に「大地を見る目が命を救うことがあるかもしれません。市では、ジオパーク活動を通して、このような自然災害対策の他、地球科学や環境保全などについて、みんなで考えていく地域づくりを目指しています。

ジオパークに関するホームページ

ジオパークに興味を持ったら、ぜひアクセスしてみてください。

日本ジオパークについて⇒[日本ジオパーク](#)で検索

筑波山地域ジオパーク構想について⇒[筑波山地域ジオパーク構想](#)で検索

「筑波山地域ジオパークサポーター」を募集しています！

ジオパークの活動状況やイベントの案内などの情報をお届けします。積極的にツアーやイベントなどに参加したい方はもちろん、「活動に参加するのは大変だけど、ジオパークには興味がある」という方も大歓迎です。ジオパークに少しでも興味のある方は、気軽に登録してください。登録方法など詳細はホームページをご覧ください。お問い合わせください。

申・問 ジオパーク推進室 [日本ジオパーク](#)「筑波山地域ジオパーク構想」で検索